

「洋上風力発電事業者向け損害保険」の販売開始

損害保険ジャパン日本興亜株式会社（社長：二宮 雅也、以下「損保ジャパン日本興亜」）は、「洋上風力発電事業者向け損害保険」の販売を本日から開始します。

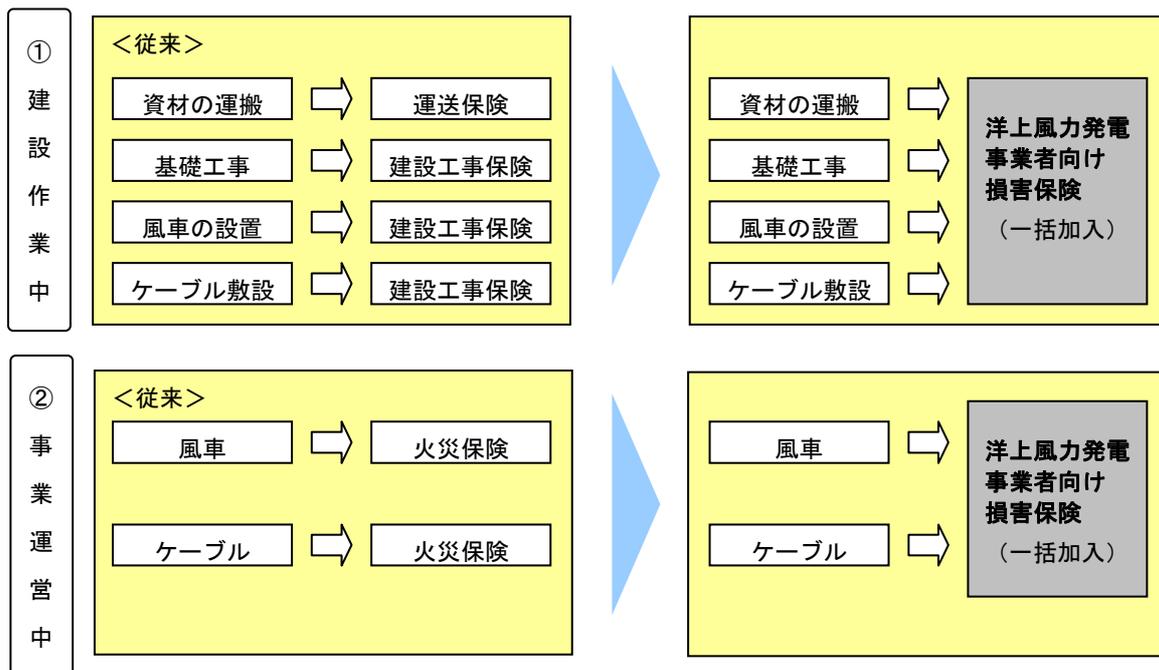
本保険は、洋上風力発電事業者（以下「事業者」）をとりまくリスクを包括的に補償するもので、洋上風力発電設備の建設作業に伴うリスク、および完成後の事業運営に伴うリスクを対象とし、それぞれ一括して保険にご加入いただくことができます。

損保ジャパン日本興亜は、本保険の提供を通じて事業者の安定経営を支援していきます。

1. 背景

洋上風力発電は、近隣住民の生活や生態系への影響が相対的に小さいと言われており、四方を海に囲まれている日本において多くの電力が確保できるものと期待されています。また、2014年4月には洋上風力発電の固定買取制度が導入され、現在多くのプロジェクトが計画されています。

洋上風力発電プロジェクトにおいて、従来は、建設作業中（設備建設現場での資材運搬・基礎工事・風車の設置等）や、完成後の事業運営のそれぞれのプロセスごとに保険手配が行われてきましたが、保険の加入漏れの防止や事業管理の効率性向上の観点から、一括して保険に加入することを望む声が多く、今般、「洋上風力発電事業者向け損害保険」の販売を開始することとしました。



2. 「洋上風力発電事業者向け損害保険」の内容

(1) 販売対象：洋上風力発電事業者

(2) 補償内容：次に掲げる過程において、不測かつ突発的な事故により洋上風力発電設備に損害が発生した場合に保険金をお支払いします。

①洋上風力発電設備の建設作業中 ②洋上風力発電の事業運営中

※建設作業中・事業運営中の事故による賠償責任や逸失利益の補償を特約として付帯することも可能です。

3. 今後の展開

(1) 洋上風力発電設備向け「リスク評価モデル」の開発 <業界初>

現在、日本の洋上風力発電設備をとりまく台風などの自然災害、電氣的機械的事故のリスクを確率的に評価した「リスク評価モデル」を東京大学と共同で開発しています。国内外研究機関の事故調査結果や、自然災害・構造物に関する数値シミュレーション結果をこの「リスク評価モデル」に組み入れて、さらなる精緻化を図り、安定的な保険供給を実現するとともに、これを事業者提供することで、事業者のリスクマネジメントに貢献し、安定経営を支援していきます。

(2) 世界規模での「洋上風力発電事業者向け損害保険」の引受体制の構築

損保ジャパン日本興亜の子会社である Canopus Group Limited (以下、「キャノピウス」) では、本年1月に新たに社内に専門部署を設け、欧州において「洋上風力発電事業者向け損害保険」の販売を開始しました。今後、損保ジャパン日本興亜とキャノピウスが連携し、世界規模での引受体制を構築していきます。また、「洋上風力発電事業者向け損害保険」の分野で世界最先端の引受技術を有する欧州マーケットのノウハウをグループ内で共有し、日本において、よりリスクにあった保険引受けを行っていきます。

以上



SOMPOホールディングスは損保ジャパン日本興亜ホールディングス
およびグループの略称です。